

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 206 号	2018年9月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—8月25日（土）会員16名および小学生1名が参加し観察路周辺の草刈り、水路周辺の草刈り、草原ゾーンの草刈り、駐車場の草刈りの作業を実施しました。

作業前には、宇部観光ソムリエおよび水利権についての説明がありました。現在ビオトープでは、用水路の水が利用できない状況です。なお作業後に、暑気払いを催しました。

—9月2日（日）会員12名が参加し観察路周辺の草刈り、草原ゾーンの草刈りの作業を実施しました。なお昨日の降雨により、ビオトープへの用水流入は回復しました。

—9月8日（土）親子自然観察隊は、あいにくの雨でしたが、多くの親子が参加してくれました。二班に分かれ、須賀河内川沿いとビオトープ内とでそれぞれ秋の昆虫を観察しました。東屋に集合して、捕まえた昆虫を同定し、逃がしてやりました。トンボとチョウは少なく、バッタ類が多く捕まえることができました。

参加者は、親19名、子18名、見学者1名、会員9名でした。

—9月22日（土）会員10名が参加し、観察路周辺の草刈り、ヨケジの泥上げ、湿地帯観察路の補修、稲刈り準備（はぜかけに用いる竹の準備）、水路暗渠の清掃の作業を実施しました。作業前には、原田事務局より稲刈りについての説明がありました。なお稲刈りは、当初予定日より1週間遅れの14日となります。

※ 稲作体験の内 水管理で9月22日に注水を止め水抜き乾燥を始めました。稲刈り前3週間前となります。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—10月14日（日）稲作体験・稲刈り（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会招聘）

—10月20日（土）維持活動（草刈り）

—10月30日（火）～11月4日（日）はぜかけ稲の乾燥具合で脱穀を計画中です。

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「 3大コンセプト 」 （ 原田満洲夫 記）

「里山ビオトープ二俣瀬」を創設するとき何のコンセプトで創造するか？協議された。そして3大コンセプトをうたい上げたのであった。そのうちの1つ『二俣瀬をアピールする』と地域活性化を見据えたコンセプトで有った。

いずれの地域特に宇部の北部は高齢化がさらに進み、少子化もそれに伴って学童の激減となってきた。今年は二俣瀬の児童（小学生生徒）も6年生が中学校に進学にし、それに同数の入学児童であれば減少しないのであるが、当初は29名の全児童になる予定であった。ところが、当里山ビオトープの「二俣瀬をアピールする」コンセプトが幸を得たと思われる4名の入学者が増えて33名となった。昨年度と変わらない児童数となって地域は大喜びで有る。さらに2学期になり9月25日から3名の転校生を受け入れることになった。合計36名である。市内の学校では何のこともない事ではあろうが、当二俣瀬では1人でも2人でも割合から言えばまさに大ごとである。ビオトープで行う稲作体験にこの児童の大部分が参加してくれ稲刈りとハゼかけ体験をしてくれる。

二俣瀬をアピールする場 他2つのコンセプト 1) 市民憩いの場とする 2) 自然環境教育の場とする 正に創設18年目の維持管理努力のおかげで有ろう。

5. 親子自然観察隊 「秋の昆虫」 （管 哲郎 記）

9月の晴天を予測していましたが、当日はあいにくの曇り空と雨、せっかくの昆虫採集会も子供たちにとって残念な結果になってしまいました。降雨予想は60～90%と高く、中止も考えましたが、すでに雨具を着用して来られた隊員もいて、40名以上の参加者もあり、参加された数に圧倒され昆虫採集会をスタートいたしました。

採集場所は上級生を遊ロードに、下級生と幼児はビオトープ場内にと考えていたのですが、下級生や小さな子たちの一部も上級生に付き添われ遊ロードに出かけ頑張ってくれました。

スタート時には幸い曇り空だったのですが、採集を開始したのち30分ほどすると小さな雨が降り始め、次第に大粒の雨に変わりましたので、やむを得ず引き返しました。会員の皆さんが東屋の周囲にテントやシートを張り、雨除けを設置してくれましたので、その中に避難し昆虫の同定会を行いました。

採集された昆虫類は少ない種類となりましたが、親子で楽しく虫を捕り、目的は果たされたと思います。何よりも子供たちの目が生き生きとしており、雨にも全く動じずに昆虫採集を楽しんでくれたことが何よりうれしく思いました。

〔採集された昆虫〕

トンボ類：アオモンイトトンボ、ウスバキトンボ、（ショウジョウトンボ～池で目撃）、

チョウ・ガ類：ナミアゲハ、スズメガの仲間（抜け殻）、

バッタ類：エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、オンブバッタ、イボバッタ、トノサマバッタ、ハネナガイナゴ、オナガササキリ、

コウチュウ類：ハスジカツオゾウムシ

今日は運動会と重なり、出席者は少ないかなと思っていたのですが、意外にも大勢の参加がありうれしく思いました。しかしあいにくの雨になり、子供たちにとってかなり消化不良の採集会になったようです。次回はきっと良いお天気に恵まれることを祈っておきます。

小雨の中でしたが、事故もなく無事終了することができました。子供たちに付き添いをしていた山口大学の学生さん、ビオトープの会員の皆様にも御礼申し上げます、ご苦勞様でした。



小雨降る中の採集会でした

親子自然観察隊の感想

★木村亮介

昆虫採集は雨だったけど、雨に強い昆虫を知れたので良かったです。

★木村優那

雨が降っていて、昆虫があまり捕れなかったけど、雨の日ならではの昆虫が見れたので面白かったです。

★木村（母）

雨の中、子どもたちと山道を歩くのはとても新鮮な気持ちで楽しかったです。そして、雨が降ってもお構いなしのバッタやコオロギをととてもたくましく感じました。また、雨の日に昆虫はどうしているのか・・・など普段考えないことに意識を向けることが出来て視野が広がったような気がしました。雨が降れば家の中にいることが多いですが、こうして外に出る機会を頂けて本当にありがたかったです。

★岸

雨の中の昆虫採集でしたが子供たちはとても楽しんでいました。何より採集したものをみんなで見合って、名前を覚えてもらえるのがいいです。日頃なにげなくみていた昆虫のなまえを知れてさらに興味がわいたようです。捕まえたかったかなへびも捕れて大満足でした。5年生のお兄ちゃんが昆虫に詳しくて感心しました。

★有吉遼

秋の昆虫採集では、雨が降ると虫が少なくなるということを知ることができました。

★有吉(母)

雨の中でも思っていたよりたくさんの虫がとれて、驚きました。

★溝邊寛人

雨が降っていたから、あまり昆虫が多くないかな？と思っていたけどたくさんの昆虫を観察することができてよかった。アカハライモリがみれてよかった。

★溝邊義人

カエルを捕まえたかったけど、捕まえれなくて残念だった。アカハライモリがすごく可愛かった！

★下川航平

久しぶりの参加でした。トンボを二匹とショウリョウバッタを捕まえることができました。いつもはあまり虫とりできないのでうれしかったです。

★下川（母）

小雨の中、子どもたちがたくさんの虫を捕まえていて驚きました。虫を捕まえ遊ぶことが近頃なかったのでいい時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

6. ピオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （ 管 哲郎 記）

(33) ミンミンゼミ *Oncotympna maculaticollis* Motschulsky

カメムシ目（半翅目） セミ科

やや大型のセミで8月～9月に成虫が現れます。北海道南部～九州まで生息しますが、最北限の北海道屈斜路湖では天然記念物に指定されているようです。鳴き声が特徴的で、ミンミンミンミーと鳴きますので誰でも判りますね。しかし、近頃ではミンミンゼミの鳴き声あまり聞かれなくなったように感じており、筆者も出会う毎に写真に残しておこうと努めています。

幼虫は木の根の汁を吸いながら土の中で成長し、7年後に地上に出て成虫になります。黒っぽい地色に緑色の模様があり、翅は透明で美しいセミです。



7. 会よりの連絡事項

稲作体験「稲刈りとハゼかけ」は、夏の天候異変か熟れ具合が遅れています。各所了解のもと1週間遅れの10月14（日）に変更になりました。ハゼかけ完了後「刈未て」行事を行います。おむすびと豚汁がふるまわれます。

8. 編集後記

「命の危険を感じる暑さ」とまで言われた今年の夏、夜間もずっとクーラーのお世話になりっぱなしでした。しかし、お盆を過ぎたころから時折涼しい風が吹く日もあり、9月の今では、毎晩網戸で過ごせるようになりました。虫の音に包まれて、心地よく眠りにつくまでのひと時を楽しんでいます。

「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」という有名な歌がありますが、いつの間にか季節は夏から秋に変化していて、ある日、気づいたら秋だったという感覚、昔も今も変わらないんですね。

さて、先日、自然観察隊の「秋の昆虫」では、様々なバッタを観察することができました。なかでもひときわ大きい立派なトノサマバッタを見ることができて感無量でした。外出もしやすい季節になったので、トンボや蝶、バッタに会いにビオトープに足をお運びください。

（ 中本 亜矢子 記 ）